

「格差・貧困」を考える

～市民参加で生活困窮者支援をすすめよう！

開催日時：2019年8月24日(土)13:30～

開催場所：湯河原町観光会館

講師：宮本 太郎氏（中央大学 法学部教授）



10万時間！これは65歳から85歳までの起居時間の長さで、20歳から65歳までの就労時間に匹敵する。「リスク化する長寿化」という話から始まりました。支える側＝現役世代が数の上で減少しているだけでなく、非正規化、低所得化等で経済的に弱体化し、更に15歳から64歳までの引きこもりが115万人以上という社会的に孤立する人が増えている一方、支えられる側＝高齢世代も低所得化、孤立化、ストレス化によってリスクが増大するという厳しい現実を突き付けられました。

そして、これからは元気な人をいかに増やしていくかが大事で、特に、PPK(ピンピンコロリ)というが、ピンピンとコロリの間の長い時間を輝かせることが重要であることを強調されました。ではどのようにしたら輝かせられるのか？という肝心なところで途中退席せざるを得なかったのが残念ですが、以後の報告は他の参加者にお任せするとして、当日のレジメを見ると、その後、皆が元気になれる社会＝行ったり来たり出来る交差点型社会のことが出てきます。先生の著書「共生保障」の中で述べられていた内容で理解すると、多様な人たちの就労を中心に置いて、地域の中で教育、家族、失業・離職、身体とこころの弱まりという多様なステージに架け橋をつくって相互に行ったり来たり出来るようにすることが大事であると述べられています。また、レジメではその橋をめぐる非営利・協同の役割についても事例を挙げて述べられていますが、私たちW.Coはすでに非営利市民事業に参入することで、より生活者・市民に寄り添った市民サイドの支援が豊富化し地域福祉が充実してくることを実践的に実感しています。W.Coを中心とするコミュニティワークの拡充にボランティアワークを中心とするアソシエーションづくり、非営利・協同の連帯を拡げるなどの展開の方向性が、孤立と困窮を生まないまちづくりにとって重要な役割を果たすことを確認できました。

湯河原町の組合員や地域の方など含め52名の参加で行うことができました。

宮本先生の話は、社会が抱えている大きな不安＝現役世代の低所得化や未婚化、困窮の連鎖や高齢世代の再貧困化、社会の分断などを踏まえた現実とその解決へ向けてというお話でしたが、優しい語り口で分かりやすく、参加された方からも「勉強になった」「モヤモヤしていたことが理解できスッキリした」などの感想をいただきました。

解決に向けての話の中でいくつかのキーワードがありましたが、“「支える側」「支えられる側」ではなく共に支えあいながら…自分らしく活躍していく云々”や“仕事の切り出し…その人にできる仕事・作業を作り出す”はワーカーズ・コレクティブがすでに実践してきたことそのままであり、その柔軟さゆえ横浜市や座間市で実施している就労準備支援事業で実習生を受け入れることが出来ているのではないかと感じました。これから、地域で共生社会をかたち作っていくとして、私たちが実践してきたことはとてもいい方向だったと再確認できるお話でした。しかし今、ワーカーズ・コレクティブもこれらの理念がメンバー間で確認する事ができず、事業の忙しさの中でやりにくさを抱えいつしか目の前のことに追われるばかりという現実もありますが……。

ところで、湯河原町ではまだワーカーズ・コレクティブがありません。現実問題として就労準備支援事業で実習を行うにあたって協力事業者を開拓する必要があります。まずは地域の既存の事業所に協力をお願いしていきますが、湯河原町でもぜひワーカーズ・コレクティブを生み出し、地域共生社会のモデルになればと思っています。（菅原 静）